

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

北蝦夷餘誌

松浦, 武四郎

(発行年 / Year)

1860

北蝦夷餘誌

全

又青^{ニレ}奥をも^{ニレ}鯉の和字わづと^{ニレ}明く^{ニレ}なれども是を^{ニレ}目^{ニレ}以^{ニレ}爲^{ニレ}すあり
かり^{ニレ}抄^{ニレ}て草木魚を^{ニレ}多^{ニレ}く^{ニレ}や^{ニレ}其^{ニレ}を^{ニレ}字^{ニレ}を^{ニレ}目^{ニレ}也

日^{ニレ}々^{ニレ}海^{ニレ}中^{ニレ}圖^{ニレ}画^{ニレ}を^{ニレ}加^{ニレ}ふ^{ニレ}も^{ニレ}我^{ニレ}の^{ニレ}及^{ニレ}ま^{ニレ}る^{ニレ}を^{ニレ}知^{ニレ}は^{ニレ}り^{ニレ}ん^{ニレ}が
又^{ニレ}番^{ニレ}賊^{ニレ}家^{ニレ}宗^{ニレ}と^{ニレ}聊^{ニレ}風^{ニレ}を^{ニレ}辨^{ニレ}べ^{ニレ}り^{ニレ}ん^{ニレ}と^{ニレ}を^{ニレ}務^{ニレ}め^{ニレ}る^{ニレ}の^{ニレ}意^{ニレ}之

此^{ニレ}書^{ニレ}其^{ニレ}尾^{ニレ}の^{ニレ}註^{ニレ}を^{ニレ}も^{ニレ}余^{ニレ}函^{ニレ}館^{ニレ}府^{ニレ}に^{ニレ}納^{ニレ}め^{ニレ}る^{ニレ}所^{ニレ}行^{ニレ}三十^{ニレ}余
卷^{ニレ}の^{ニレ}中^{ニレ}より^{ニレ}聊^{ニレ}摘^{ニレ}記^{ニレ}を^{ニレ}も^{ニレ}之^{ニレ}を^{ニレ}微^{ニレ}細^{ニレ}を^{ニレ}考^{ニレ}へ^{ニレ}り^{ニレ}と^{ニレ}要^{ニレ}録^{ニレ}を^{ニレ}

世^{ニレ}を^{ニレ}を^{ニレ}全^{ニレ}閣^{ニレ}かり^{ニレ}し^{ニレ}る^{ニレ}事^{ニレ}を^{ニレ}と^{ニレ}安^{ニレ}政^{ニレ}七^{ニレ}庚^{ニレ}申^{ニレ}の^{ニレ}仲^{ニレ}春^{ニレ}曆^{ニレ}太^{ニレ}日^{ニレ}記
刻^{ニレ}版^{ニレ}の^{ニレ}日^{ニレ}於^{ニレ}江^{ニレ}戸^{ニレ}深^{ニレ}川^{ニレ}何^{ニレ}様^{ニレ}橋^{ニレ}の^{ニレ}邊^{ニレ}

松浦布江郎 誌

北蝦夷餘誌 ^{一名} 叱囉伊加 噠呂律古 記行

伊勢 松浦竹四郎 著

廿^{ニレ}安^{ニレ}政^{ニレ}丙^{ニレ}辰^{ニレ}の^{ニレ}春^{ニレ}余^{ニレ}太^{ニレ}田^{ニレ}某^{ニレ}と^{ニレ}同^{ニレ}に^{ニレ}隊^{ニレ}長^{ニレ}向^{ニレ}山^{ニレ}君^{ニレ}に^{ニレ}扈^{ニレ}從^{ニレ}し^{ニレ}蝦^{ニレ}夷^{ニレ}の^{ニレ}西

岸^{ニレ}を^{ニレ}巡^{ニレ}視^{ニレ}し^{ニレ}五^{ニレ}月^{ニレ}下^{ニレ}旬^{ニレ}ソ^{ニレ}ヤ^{ニレ}地^{ニレ}より^{ニレ}北^{ニレ}蝦^{ニレ}夷^{ニレ}を^{ニレ}名^{ニレ}の^{ニレ}白^{ニレ}主^{ニレ}日^{ニレ}渡^{ニレ}區^{ニレ}春
古^{ニレ}潭^{ニレ}に^{ニレ}過^{ニレ}り^{ニレ}此^{ニレ}地^{ニレ}より^{ニレ}東^{ニレ}浦^{ニレ}なる^{ニレ}富^{ニレ}内^{ニレ}茶^{ニレ}と^{ニレ}云^{ニレ}は^{ニレ}越^{ニレ}え^{ニレ}り^{ニレ}東^{ニレ}岸^{ニレ}修^{ニレ}眞^{ニレ}

絶^{ニレ}名^{ニレ}に^{ニレ}到^{ニレ}り^{ニレ}西^{ニレ}岸^{ニレ}を^{ニレ}至^{ニレ}り^{ニレ}し^{ニレ}出^{ニレ}ん^{ニレ}の^{ニレ}途^{ニレ}次^{ニレ}を^{ニレ}議^{ニレ}す^{ニレ}に^{ニレ}東^{ニレ}海^{ニレ}岸^{ニレ}を^{ニレ}過^{ニレ}り^{ニレ}東
濱^{ニレ}より^{ニレ}小^{ニレ}舟^{ニレ}の^{ニレ}通^{ニレ}行^{ニレ}快^{ニレ}晴^{ニレ}の^{ニレ}時^{ニレ}なり^{ニレ}難^{ニレ}く^{ニレ}糧^{ニレ}食^{ニレ}を^{ニレ}人^{ニレ}畜^{ニレ}を^{ニレ}搬^{ニレ}運^{ニレ}す

（さ^{ニレ}由^{ニレ}依^{ニレ}る^{ニレ}城^{ニレ}へ^{ニレ}人^{ニレ}負^{ニレ}を^{ニレ}減^{ニレ}し^{ニレ}出^{ニレ}立^{ニレ}せ^{ニレ}り^{ニレ}の^{ニレ}停^{ニレ}決^{ニレ}し^{ニレ}也^{ニレ}暫^{ニレ}も^{ニレ}土^{ニレ}倉^{ニレ}拾^{ニレ}拾^{ニレ}を^{ニレ}定^{ニレ}り
し^{ニレ}隊^{ニレ}長^{ニレ}一^{ニレ}枚^{ニレ}の^{ニレ}規^{ニレ}條^{ニレ}を^{ニレ}出^{ニレ}れ^{ニレ}喉^{ニレ}糧^{ニレ}を^{ニレ}物^{ニレ}を^{ニレ}都^{ニレ}て^{ニレ}を^{ニレ}儉^{ニレ}して^{ニレ}旅^{ニレ}装^{ニレ}を

一 杖束束と伴天股引下着銚腰宜羽織色笠三尺布桐油茶鞋一履
つくる

但一夜見之申が修入一枚
自分用意也

一 茶碗一箸一俵浴巾懐中巾杖と猪手次骨たる

一 燭燭竹火繩棒附木火口用意事

一 小鍋三茶椀一川用意事

一 鉈二本間繩挑灯と光源を支持する事

一 源を支持する文庫程の柳行李の持系鉈盤量尺紙筆小筒用意事

一 矢立子杖火打扇子足袋茶臼湯く用意事

右の外毎月と泉而持越へが事也

と余も齊くよく物之三山道越くナイアワ地と奥ヲロコ地

イカ地二種其の地を巡視せんを隊長是をゆるぐ依て六月

五日先人丈の者を定むる尚所懸小使ツク二名とロイ地のアカラ

と余丙午の夏に地を巡り事も有る故に是をいふ之餘も支

配人の意に任す其出處をタコイ地のモキウウエゴタン地のヲケノ

カラ名をシユエヤ越の事を能く案内のり又シラヨロ地のウキシエ

奥二種コ智カ夫の地を案内の者として出掛け行路容易の事なれば

喰物も主人より奥取草根ともに其地の物を喰べ旅心静を出入る

一 藁の束と一梳の櫛を齎し行路の處を宿と定め

七日出立しシユエヤ山越ナイアワ地と奥ヨシラヨロ地を著し

運上屋を出立しシユエヤ小舟にてコイ地入り是より山

クイ地は是より小舟をオグツ地下り海唇までシラ子只陸行
のとき茶溪翁審小徳より一紙一畧をの写他ノ教六

十四日候シラ子ヨ口城のクロスケ名と云ふ名の妻のウライカ名の産みて三歳

までクロスケ名を彼地は行くと云ふ故に是を救ひ去船一艘を備

て糸出は此所灣をあぐ海唇の字アサナに教示せられキタ子一枚は

四十丁と云ふ所なり也

真鍮の筋イロに到るまで川有るに八丁も初や八丁名地といふ地は

甲寅のとき一兩輔軒使建立の麻生山の社の有るに下船

を以て土人等一柄のエナ子林燗を焼く勢

ゆゑのやむを我を去る限のころ陽を限りもと先

と辨腰一そと去るに玉柱を建陸裁り方の事も祈りてト

輪ワ荒シハ子トカンチニモクシユトシといつ岬を廻るとト

子カロシイ地カ小若る此処夷家二軒サシテトルも上陸して風船

を又合せまゝ一柄の削エナ花を焼くせり其柄も

あやうくまふ浪よ賑ひけり突岬トッリの傍の風を待たむ

と云ふ波ナ浪ナを投ナ五の餘情ナを流ナ投ナ出ナ也ナ左ナ右ナト

タシノツツ岬ノ岬ノ花ノの大岩も種々の水鳥の群居るにエト

ヒリカノ一群ノ鳥ノを土人等指示して少くも何時ノ何処ノなり

来り此処ノシトコノ二処ありて又清洲ノ何処ノ飛去りて

其餘種々の足馴ノもあはれも洪濤ノ漂ノれ者先を

いづくの寫生もよくて体も似る

エトヒリカも厄土魯布エド布ロ布フあり多しエトも鼻ヒリカを羨し伏
けを此角紅を水色号之刺井ケ加倍も島の婦人は此角を以て衣止
綴り飾を衣止とや又西洋會話之藍色の生ハ圖を載てゼルハ
カアイ又ハカアイ又イクルと号環海異聞のヲクチヨと号は是也
如くハエトコトと云はれ三丁斗の砂濱を其た古城たる
崖より愛あてた屋よりモニキワ人の云はれ鈴木ニバを以て
ありらるゝトツワの清心を指し物ありと

其名義イコウエトコトハく岩石悪き処といふ便あり
るハバツレチレチモエウツツナライトツツナリ絶壁傳ひハ

エトマリ名は一條の瀑布あり數百丈ありてこれを山中
より眺むるに恰も中天より帆布を乱せし如くトト突岨ト岨フは
神山の才一岨と云ふ海中に突出して左右より洪濤山を向て
勢い勝を冷し放たる巨岩怪石の方々潮の響き岨軸カクを研カク
怪しれ湖の奥より小舟轉るや心静を潭指の石に流添りぬ
頓と海舟の里の羈情を起さぬ愛化禿竿の及ふ処より
と雖もこの頓と二絶を以て名を以てす

断崖千仞飛瀑自中天華嚴兼那智豈能得比肩
怪石怒似狼奇石伏如虎撐舟此際過心悟栗双股
其光系根むつる岩より下に下流隔る小舟をまゝ故トツツ

多岐志下字表



穴山岳

シダコシクマ

あまのりふ家
ねりかへらぬ
とつれあて
ふくむさこそ
ふくむさこそ
ふくむさこそ
ふくむさこそ

石唐



マキトシ

全形をたゞ事をや人等一同 烟草一摺をばし採りて之十六

トツツとを城とす断崖とて是より先さほと云依之

ウツナイウとハ 越くノホリホウの山嶺之上階を土人の云々

東と云ふトツツを云々越く云々と祈 奥に云々トツツ

越く云々の有り難く云々知く云々チヲを削り云々

一柄を削り云々行と云々放り

津と云ふ云々云々云々國のたあ世のたあ

と云々云々云々の濱に立居一豆飯と云々云々

云々云々云々の煙草と云々十二把と云々云々

云々汗と云々云々の布と云々云々把別と云々

あく是よりイサラキ球ニシテルウニボ計ヲチマラセタイト六ヤウコルトイト九

イカラウシ管と云々云々マリンコタンは若者

東向濱飛うく左右云々岬其向一湾を介し川有 鮭 鯿 鮎 鮒

多雲中々々フヌフのお人イウウノの忤キレカリを連々 出稼まは川

路の多きと云ハ 越く体と云々云々六七十尾を捕りて船に積り

と云々云々子セツ前々思ふも 明りの天危心りとなるれは是飛フヌフト九

チウと云ふ船と云々云々云々左り岩と云々ヤサトツリト九 岬と云々 赫シヤウウと云々の城と云々

火焔のぬき岩岬を巡り針をせと云々拵く云々トホウトツト九 名地

トツツト九 名地 インカルト九 名地 岩壁と云々 岬と云々 岩壁上を 樞シユンク 樞シユンク 松シユンク 松シユンク 松シユンク 松シユンク

たり凡二里半と云ふは岩二十余間と云ふ云々 岬と云々 岬と云々 岬と云々 岬と云々

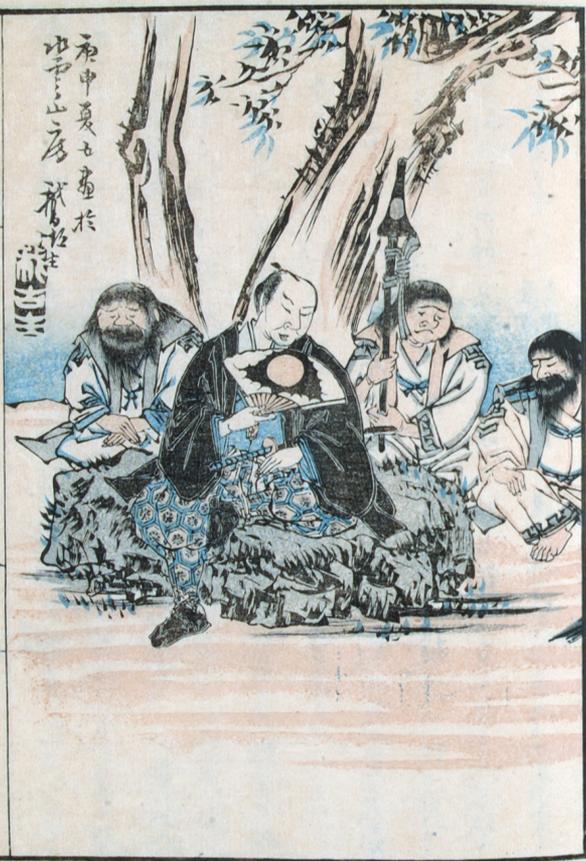
傍に雌雄の熊兎を連て捕ひ居る者人等是を又よりと
 弓に箭をつらひて白熊を射たし擢の多し熊を少く飛りんと
 するを跡に放ちて笑あそぶ終るるを道にゆく彼星の地也
 寄り鯨を捕りて息氣逆く小陸にゆく其後舟に喰る魚
 なども思ふれもね共をより金鳥も西山に傾き少く暗く景
 後ろの方より胡沙隠れ一輪の月より出たり多し其寒より
 捨りてホヤシケイ名マトウシナイ名ニイランケウシ名フレチレ名アカラ名イコ
 モシ等を裁く後マクシコタンフ又ツフト名を
 寄り鯨とよを氷海始り洪濤の舟に破りて生同く打ちて
 死す四月月日名をよる依て必も首を互りぬる

此処人家四軒アイカタイイホウイシニコクサイ小石濱之女人等何れも舟に
 漁り行くとと皆明屋に如し舟所を鯨と水豹を多し
 とも川魚を至るを食りたり也熱くトツ岬より南を皆上り
 彼徒まれとも此より舟を風倍多くタライカに頼り古船等も
 多し山靴の物を用て扱家より一篇に後半にゆく白雨頻り
 舟に椀皮骨の根根を処漏りて寐るとも戒難きれより早より支
 度一掃りの糧と塩を舟に置舟を舟に曳揚する
 十五日一同の雨意より出立する舟より海を熱く積太石の上
 一團二團とも寄り木多し打とる向くとライムキナ藪のホラヤ
 キナ若葉茶の種カウ替蓋より舟の紐を束風吹りて船より

萬里單身輕
似萍飄絕地
海暫停船地
球北去天河遠
儂有辛牛
織女星
木川松翁圖



初申夏七畫於
北地身會言
林松翁圖



チエトイと云白き土芥りり叶の根を喰ふ時是をノ水で喰ふ
毒に下るゝと云ふやカウフト云くもマ英後イノシコトイニ有
東西概身地を敷テ新に余は好む好むは云を喰ふ事馴ら
此有りとの夫地第一の徳也云々の一なり

夕方霽き故山人笠樺ありを以テ舟を問ふ船の道了移を捕ま
其陸府の間に舟を沈む舟は積まり是を以テ地魚類の多き所也
余を今日思ひ有り霖云故夜半より目覚何角と思料し今
水舟の操りしを熊のふれ類も吠き不眠なりて其を有例あり
懐胎と二絶を以て故樺打しと云傍の樺も志し一ふぬ
今あるは相抄られ月夜津つらん者等の熊を食す事也

月色林密渺々寒雨後天溪痕三尺漲漚々夜難眠

十六日一椀の粥に粥敷尾を喰へる飯より水初肉を各徳し
志く出立しと云今有りりる所より河之流名六月五月の事われ
空しくしりたりたり勇まきし月の上を滅くま高山下に石原
小寄木を今打よと云へ口にもマ地クタクトイ地ハモヨウナイ地カムイ地ヒ地
等城之凡二里斗よりノブカ地と云し到るは所かしの出岬なり
越えしと云カ地ホロナイ地名に到るは海扇も海惚めぬと云の石
小化しと云を見もく珍しとの好く拾ひ袖に入れりて於てあの袂重
く歩行しと云茶も其拾ひを又りて投捨りとも可笑く
岩のゆるゆるセウシウ地名ラヒシマナイ地名ラベレヤレナイ地名はをさすも有り

餘二頭を見よる候ウカウエシユタシ地名一ぬ

此処山あり川有中世其為岸ふ人等二軒住サキリイ一軒て休ら

ふよ妻を我トマハ一を出一國のを能を出サキリイ以て可憐世余

子臥も志まれとも明男都合北一ル北川を流れてるサキリイ一隅の

糧と米合日を能て出北一ル北川を流れてるサキリイ一隅の

揚水小貝多中やも北一ル北川を流れてるサキリイ一隅の

相是よりキイ又北一ル北川を流れてるサキリイ一隅の

等越北一ル北川を流れてるサキリイ一隅の

川中百余間北一ル北川を流れてるサキリイ一隅の

崖の下北一ル北川を流れてるサキリイ一隅の

飛也北一ル北川を流れてるサキリイ一隅の

アカシ
長三斗並生一アア
イナ同是ニ一濁ニハ何
ヨロコ人好ク是ハ味を好ミテ
食モ頗ク清味多ク物之

アイモチチイ
鱈鯉ニケチウ



水母守

水母守



ウニカモイセイ
長條玉々柔之

於一條の山川有以起見馴々小糸の居る水はツクニウ構笠を
是に救以上より後をうう、横筋は後背より針あり是本邦の
糸糸の持影をクライカ人よりクライカ湖より多の一方はアイエ
ンケチーと云ふ一答多ぬ帳表地是に括りコロンと云ふとありは
糸糸を古名糸糸と云ふて括り糸糸を糸糸と云ふとありは
濱より久しぬと三人の名を括り糸糸を括りて括りて
我より下り糸糸を括りて

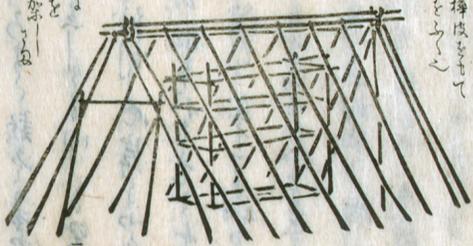
抑是より久しぬと小石より別て引漸々糸糸の依り
今宵と足を取る行人と急ぐ夕カリナウニヤツセル
イヌも心して処るや向より弓箭と槍を肩より糸糸を括りて

あ、ウエニコタン^{名地}のサ子キリファイ^名わうと余の懇懇に礼と云ふ
ウイキレユ^名ツクニウ^名と話をなすは後ツクニウ我の倍は
トコ^名の異國船二艘来りり上倍は、即ちヨロツコ^名夕ライカ^名
舟も彼地出稼に到也との皆迹来りりと倍は、又も附も
一歩と早く行んと是元の修くは急ぐカチナイ^名イマウチ
ナイ^名ツクニウ^名ツクニウ^名ツクニウ^名ツクニウ^名ツクニウ^名ツクニウ^名
りて三角屋の建あり、其故を問ふは是を分タイカ人
は水豹獵よりなり、内は是よりヤマタより物を急ぐ
中より辺海なる沙嘴の如き丸を赤き地多く流し打揚る有
たり、其人を割り湖より流し余より急ぐ故、味石^名漱^名

是を水に浸し候はば其の味は其の功驗著しと云同
 沙濱まきキナウシ名地ワツカウフウシ名地ト云怪シルトル
 サツコタン名地名地処川中五六万歩瀝うて乾鏡多々其背を顕し
 瀝り候はばアカラカクモシキツ故を先より処より高より低り
 其魚を二十尾斗捕り幸安の山根に巖の旁に其陸に宿ると云
 其先評法一一夜の権を巖根と定て二回を可難作らる
 此を思ひ出り月形をう一その悪縁を焼くの處より
 降りしを熟を採りて一運りん礫の巖布を裁り存あり
 と云而して一採りて夜中より微雨とあり候はば

相油むらりて款冬を茶を以て被り立たり候はば粥と喫し
 十七日出立り候はば同を以て歩行し候はばホシサワコダシトナ
 イホ名地名地候はば也岸より舟一艘引上り候はばクモケ候の處より先
 タライカ人の船より先より舟より同の所地を積り候はば内二斗を
 空身より陸より一ナイ名地トニバの来り候はば其の味を以て
 ウキシ名地ト云モシキツの二人を以て人の船より其味を以て霧雨降来
 り候はば肩巾の桐油を被り候はば其の味を以て霧雨降来
 子ツツ名地イ名地名地教示せ候はば其の味を以て大く候はば今も其味を倒せんと
 其味も有候はばクロスケツクニウ勢限りホホウ名地ト云と云候はば
 其味も有候はば其味を打込候はば其味を汲採んとせ候はば

タライカ人
トウホを以て丸小の架を
概皮を以て擇皮を以て
木根を以て

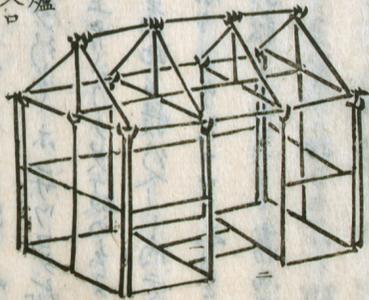


保
大棚を
架

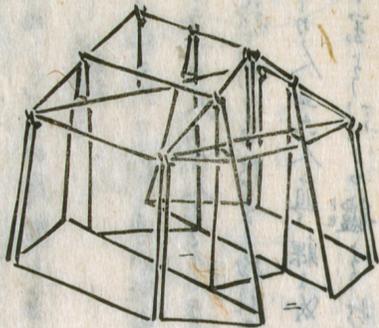
タライカ人 糸奥四ヶ村家の建方
木根と木皮を以て

入口は
廂を以て

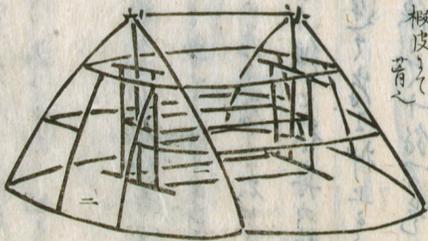
一
二
中
入
口



ニクブン人家建方
木根を概皮を



ヲロウ人家建方
概皮を以て
木根を以て



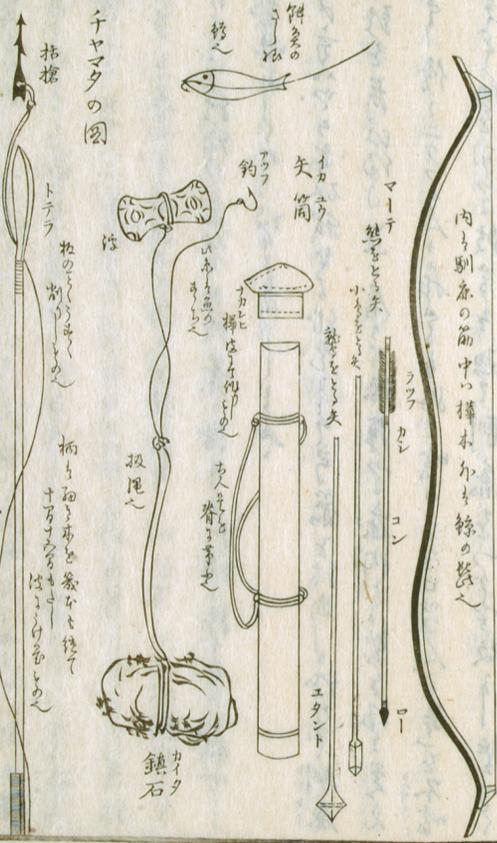
クロステ直一筋を取て我より一ト、木柁を以て始末を既終り、
官政物之り是等の即智を事なれり、と云ふ、此の如く、
（以下省略）

ニイツイ^{地名}の川口より利へ北は処平山の間に一條の川有^{中世}、
処ニウライカ人二十人あり、ウロコニクフンと出さう、
並ひ我、劍を待たせ、此れ共其供養の爲、
ウライカ人五六人、真、艘に出入り、
殺さき、
止と各難くと云ふ事、手練も何れも、
（以下省略）

引

ウロコウ タライカ ニクフン スノレンクル コシテキ 山組等をも引也

内より馴鹿の筋中の構木外を録の筋也



千ヤマトの図

柁

柁のくさし

柁を和す

十

こころの向ふの方より小舟三艘ヨロココ人古水釣沖を移て
来りて是より是より上り會所交易し以て依て余世交すて来
りて是事浅一筆記し向ふとて殿より来りて是事
渡り是れ一筆記し傍の岩雨に

風倦汀沙脚撲而天辺指顧塞雲顔洪濤洶涌粗甲軸
猶有漢獠鼓掉来

佛一立分水んとて中ツクニウ構盤一投を貫けて我かける
風は是は清ららるるを患ひて是々之とて石岩壁の下傳は亦又
とホウシ地名ノ下地名イカラコシ地名キレ、地名モエレル地名等越く以て也此
に千ライ魚名釣々を釣し海一ありて凡七六尺を有るを是れ

一尾のりて所より又これ鱸も信も鱒蛇のゆくありて氣
味悪ぬりのニ根ニツイ ころく一せりの川有る処を

惣言はぬとて人家の鳥を処りては家より何とせ
喰物を持来りて饗食す風俗なり

チライ石名も概秀語して松前方言いと云石持り
る一少く赤きとて喰をさりのもの何の内記来りて

奥より近の上棒の石持記し寫生を筆を以て寫し墨を
コタレケシと云人家カラス一羽アイノ妻と妻と老母と子供と十二人

少くありぬ其夫と夫三は寸満所の古勇を若く懐く勇壯の
男之我れをす門はも若くを教八人の子供を一連スと

家をおく一家の傍にラロコ人等、出稼せし呼せし事已、
奴僕のみ一頗る同じに思ひ、別して一物を得て来
りまるとモウ、ニクフレ、おん事を、我々も、此の地、
地の名、皆、知り、合、所、外、を、能、を、連、々、不、及、と、大、に、怪、り
く、又、一、枚、の、草、物、を、ま、り、し、り、ゆ、き、き、却、礼、し、て、弓、一、張、と、矢
三、種、と、具、を、お、ね、を、ま、り、バ、ラ、コ、ウ、北、名、千、シ、ト、モ、ウ、シ、北、名、ワ、ウ、二、北、名、ヘ、セ、ト、イ、タ
イ、ウ、シ、昔、を、岩、壁、の、下、を、行、き、波、満、の、付、を、波、浪、岩、根、を、お、り、過、
り、し、一、般、を、行、き、し、り、一、奥、の、方、目、を、障、り、の、マ、リ、一、郊、辰、の
方、一、山、の、一、点、の、青、山、波、上、に、梳、を、ま、り、し、り、是、を、向、き、シ、レ、ト、コ
の、由、答、え、り、凡、此、処、を、直、徑、凡、二、十、里、位、と、思、ひ、依、り、し、り、一、絶、を

賦 得 休 息 之 小 舟 の 皮 を 剥 ぐ 事 一 五 五 七 九

海 上 務 晴 時 亭 午 風 青 標 指 點 渺 茫 中 焉 知 處 此 是 類
背 一 道 噴 潮 撒 遠 空

此を了、浪を皆、お、り、し、り、山、兩、崖、の、根、林、之、相、交、り、夫、言、ヲ、ナ、キ、云、
て、類、白、の、ぬ、き、小、舟、一、羽、翫、り、波、ら、水、を、あ、り、し、り、を、ウ、イ、キ、シ、テ、控、ひ
ら、り、て、前、の、水、を、シ、ラ、ン、人、が、水、を、探、り、求、め、り、し、り、い、度、を
ヤ、ー、と、シ、カ、リ、是、を、取、り、指、を、投、お、り、し、り、時、ニ、ラ、フ、大、に、怒、り、礮、を
打、り、夫、を、又、捕、束、り、直、に、噴、き、し、り、一、條、と、し、り、ニ、ク、フ、の、野、鄙、な
る、事、知、り、し、り、夫、を、一、と、コ、チ、ヤ、ウ、チ、イ、北、名、ヲ、子、ト、ウ、チ、イ、北、名、ヲ、千、ク、ニ
ナイ、北、名、エ、キ、子、ウ、ル、ウ、シ、ヤ、北、名、等、と、し、り、一、西、の、平、地、と、し、り、を、
北、名、と、し、り、

々々々ハツサバシイ者也
 ナヨロハ此東地目ニ遮る物々を平地ニシテ川を其西岸ナラ
 イカ人ニ新江ヨリト住居有るをテア人十数ノ中ニ家居傍の
 立本ノ樹木をやし一毎二十余疋ノ犬を繋ぎ是を雪車と
 曳しもふ可也其顔をも同地ノ者より猛く喰物を生地の
 やしをもふ喰者多し物ニクバンと性陰毒と樹木の
 下をのみヲロコと性陽と晴や々々を好み容貌も
 フロワコニクバンスメレクルコレキ山靴満夫等より彷彿と
 有其風俗益賊系ノ氣質言語も是よりヲロコと懦あり
 博朴ニクバンと鄙利より思スメレクルを強利より鄙あり

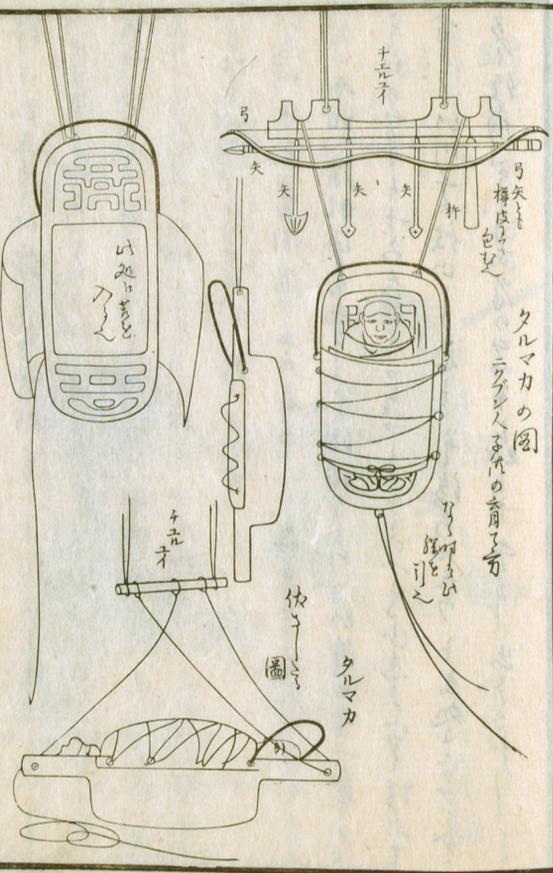
タライカ人其々々ハツサバシイ者也
 器山靴の物を同じ日ノ物とて之を溜と鐵の之

此処々何故あり所々や此の丸木舟を能く是をフロワコ人
 水歎皮ノ易より一々川系ニ立出彼も作有る者頗る少
 又々々夕方一團の者を喰く二十粥と虫合斗も若草とを振舞ふ
 其子を喰く残りも草の多し包きて子供等におまじ持功
 一々是もも彼等々不自由なる事志る別々も此近年滿江
 江の川筋ニ俄羅斯ニ滿洲の合戦もニカライスカと
 々々々口俄新ノ人等馬頭を以て々々々々々々々々々々々々々々
 々々々依て滿洲地ニ土氷の起る止む向を彼地ニ交易し得る

煙草をワラシと云ふ針等も甚ふり由均所也依一岡汗
 一ウツキ一ウツキ悦以ぬ越て彼等の衣被も魚皮水獸皮水と
 満眼の極に長き窄袖の縫種々の金物も玉等と飾りしもの
 ニクワン人いさよウツキコと交易をすらん其獺批オウツキ船の
 三層ももも大いそ次は水豹皮を以て衣被とす取替へ
 ても不足を互う取替へる事多し其船等の皮を用
 ても所りまてニクワンズレニクワンコトナキ山組等の交易の通ふ
 足に傍りても青玉と見ゆる玉を以て方本部の銭の如し
 十九日明りも常用の入りと見ゆる事少く海に拾羽織も少くも若
 しともあつてもよく此起よりニクワン二人を備へるものあり者も

クルマカの図

ニクワン人等の商賣の方



師一出まゝに流るる皆堅形とて去り能く流るる如く
 八千ヨモウケ^{地名}ホ口モウケ^{地名}いそニクフシ人口ニ千ヤマ^{地名}とかけ流
 処ありく夜前も五種を湯とてと腥血未だまゝに下道不有
 とうウエシハウ^{地名}トマサウ^{地名}千カイ^{地名}千ヤウ^{地名}と名号する九つ
 才は^{根ナヨロ}シツカノ川湯と名を

い処川中凡二万間深サ五六尋のう一南島才一丈川中を其
 余の平地之流形正南向くく地相くるりい灣の才一丈と其
 くの死の方くく十ふふとてアバマイトと云ふ山未だ雪に埋れて
 有るる川上と彼山より来るる雪は冷れモウと云処ニテア人等
 多く怪病をうり西岸の川中と名はと云り出るるなりと

カニウツク
とつとを因
鉦口琴

本邦にハホレるべし

ヨロツコクライカ
ニクアレの三奏を^{儀を}

二肩よりてやれ小
おぼろ^{おぼろ}

おぼろ^{おぼろ}
おぼろ^{おぼろ}

傍に坐るものも、五種の歌を奏せしむ
トレクルも、カニウツク

下におぼろ一針、舟をくわし
ムツク之を、ムツク之を、
引て、おぼろ

夜申竹舞の曲

於中を、山之名

名、^名、^名
引て、おぼろ



作
曲
五
清
曲
川
玉
清

今依て一絶一首を吐き出さば此のありはしは行はぬ

白草黄沙十里裡 曉未急認血痕行 獵人指點射鷗処

回雪半天山雪明

雪の敷く心ゆくもあはれを乞ふも小晴き心ゆくしれ

向岩のワロコ人等多クヤマタを知りあり 我らあつて入て掉じ

ありたりは是等と案内し頼り東岸に越り渡り行や然も松の

木の波のよく化し生る二而一有りしを中々琥珀と接し

上々ふ葉の松と樺木のいさ下叫ぶを怪く不見馴れものも

有ははるワロコ人の墓所数ヶ所を嵯峨川 十七ヶ と

ワロコ人を死ねば長擡うて是を平足と三尺法より七尺

伝言く架を傍に平りの持込を槍弓箭の振込物を立置り
今も大坂の格うて高低定まり

七千セツトと申してワカの川端に出たりワロコ人ハ多ク有イザナ イサナ コエ

ムリカ ウチヤク ヌマイ 一見物 舟 向岩のハツタ と い 秋 ハ

エトウ チヨシコ チヨシコ 又 一羽 十ヨロ より 連 舟 し ワウ シ の あ ら う

そをうて馴トナカイ 鹿と野頭トナカイ 鹿あり 鹿をワロコと雪車を

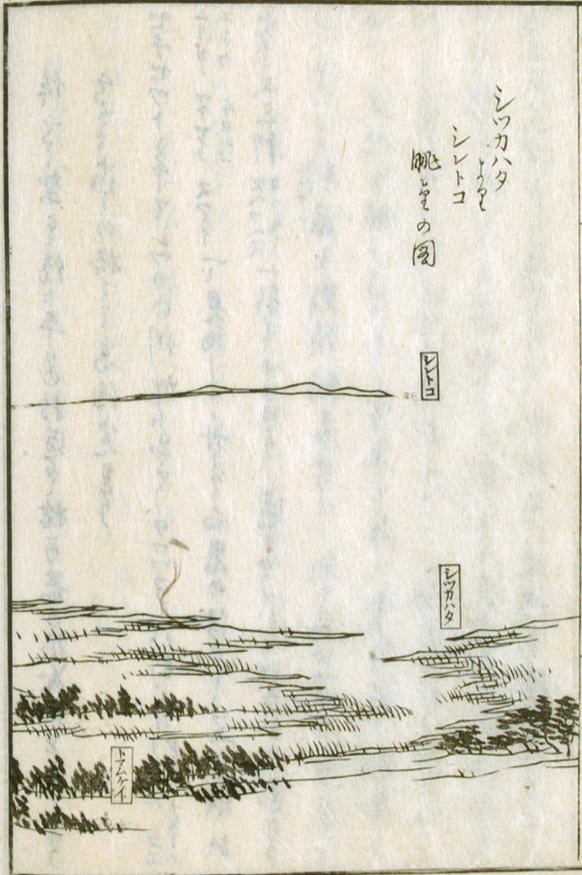
曳し又娘を嫁にさすも雪車を飾りたり 載り馴トナカイ 鹿

ゆきをさすも色内地の南部迄行くも嫁をさす馬を飾り

たり載せてさすも畧カ 似すと獨笑エ マク方ナク 松の魚皮

の三方二百斗 總合合せ 厚根皮と大福を牧を備り門口

シロカハタ
シレトコ
船と雪の図



蝦夷地國境圖

緯地種と漢何易
山川應く各通所
何時定學堂之街
當甲帳疆在

小川速堂

俣谷寫



度り、流しをコロコロ金を足物、大機かまう、何色も、鏡鮎水豹、多枝持、鳥り、心切定、心根、徹、さす、大を
我を見、頻り、吠、う、是、を、給、んと、困、う、う、

今日、赤司の、入、り、う、い、ま、ま、纏、り、多、く、捕、う、熱、で、鞋、を、走、り、
い、入、纏、り、赤、の、裏、より、口、来、り、口、より、裏、へ、ま、ま、宜、あ、り、

吹、米、八、合、斗、を、大、濁、う、濁、う、若、我、を、見、物、の、人、言、一、捲、ア、振、舞、ん
と、思、う、大、切、の、事、取、器、も、そ、り、外、を、め、り、も、列、難、く、流、う、ホ、ウ
キ、貝、蛤、の、壳、を、捨、り、く、そ、う、一、杯、ア、ま、り、ま、り、ま、り、振、舞、り、を
物、を、飯、屋、の、傍、に、大、勢、篝、火、を、燭、う、我、を、さ、う、異、う、う、二、三
し、ど、起、る、ん、う、月、を、ま、く、中、に、わ、く、水、明、く、も、方、が、我、の、衣、袋、を

セリのお

お祭、あ、ま、う、人、形、を、飾、り、熱、の、夜、を、ま、也
割、り、あ、う、う、い、は、り、

三寸位、う、や、一、尺、
一、尺、五、寸、ま、り、



同

子供の、う、い、は、り、

フクシ

青玉

セルタ

舌溜へ

女の、お、い、は、り、の、き、り、

カワツコ人

子供の、お、い、は、り、



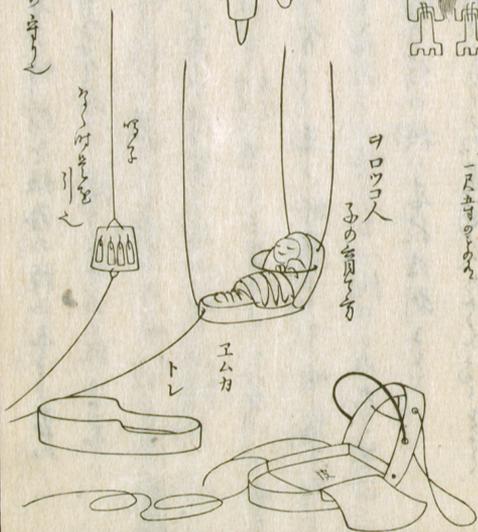
う、い、は、り、

う、い、は、り、



エムカ

トレ



其^ツ似^チ楓^ノの^ノを^ハ作^ルは^ハ是^ノ種^ノの^ハ環^ハを^ハ附^キテ^ハクル^ルカ^ニと^シ腕^ハ輪^ト
 入^リて^ハ廻^ル山^ノ靱^ノの^ハ風^を学^ブ處^リ余^ハ宜^クと^シ夫^レ其^ノ墨^ノ所^ハナ^リし
 今^ハ木^ノ切^リカ^ク水^を入^レ搗^ル所^ナリ^ト老人^一枚^ノ端^を拵^メル^ル
 是^を依^テセ^テ其^ノ下^ニテ^ハ搗^皮を^ハ燒^キテ^ハ油^價を^ハ名^ノの^ハ羽^ニテ^ハ拂^ヒ夫^レ
 今^ハ是^ノ事^ヲナ^スル^ル事^ナリ^ト余^ハ亦^ハ厚^ク拵^メル^ル
 我^ハ夫^を除^ク時^ニ是^レ以^テ書^キ浮^クと^シ赤^ト墨^トと^シ際^ハ夫^を
 又^ハ是^ノ事^ヲナ^スル^ル事^ナリ^ト余^ハ亦^ハ厚^ク拵^メル^ル
 赤^ト墨^トを^ハ一^片書^キテ^ハ宜^クと^シ自^由如^ク又^ハ水^ヲナ^ス
 滴^ルと^シ感^シ付^クぬ
 廿一日^迄早^人の^任事^ナル^ル也^ト是^レ限^リを^ハれ^テ是^ノ後^ニテ^ハ海^程ニ^赴ク

池^ヲ作^ルつ^テも^ハ湖^中と^シ一^見し^テワ^カル^ル出^ルと^シ水^ノ二^艘を^ハ解^キ
 一^歴と^シ荒^阪討^盡還^ル餐^露宿^備章^艱彭^時笑^我我^也
 中^紙滿^載人^間未^見山

等^々名^多う^テ概^本多^ク其^ノ向^を就^クイ^ク子^工元^シ名^地ワ^ワコ^子名^地ヲ^セ
 元^シレ^レ名^地等^々是^レウ^エシ^チヤ^ルシ^名地^ト也^ト其^ノ到^リテ^ハ二^半也^ト以^テ是^ノ川^ノ
 入^ル其^ノ中^ニ二十^余間^也其^ノ概^本在^ニ二^半也^ト以^テ夕^ナレ^コク^レの^川上^ニ也^ト
 出^ル所^ナリ^ト是^レ川^ノ中^ニ凡^シ七^半也^ト以^テ是^レを^ハ拵^メル^ル事^ナリ^ト
 凡^シ二^半也^ト以^テ是^レを^ハ拵^メル^ル事^ナリ^ト

シ^ワカ^ノ川^ノ上^ニカ^クハ^ハイ^トト^名地^ト也^ト以^テ是^レを^ハ拵^メル^ル事^ナリ^ト以^テ是^レ人^ノ家^一所^ニ也^ト

八月七日ウヤの物帳 是より北海岸に於てエサシモベツシ
子モロアツケシ等をして、東部の海岸まで出
十月十三日、お敏府の物帳、是より北異域に一年を巡
視し、ゆりし、是より北の部の若くは、ゆりし、ゆりし、
とあり、とあり、とあり

東討西探終一年、敏來高枕始穩眠、肅慎風清流
鬼雨今宵酸、夢屋何邊

一巻は深きもの也

北蝦夷餘誌 大尾

書松浦多氣志郎蝦夷日記後

君不見蝦夷之地。距江戸二千五百程。廣袤幅員
大於内地。東南連鄂北女真。居然一區新瑞穂。厖
乎槃瓠配天妃。爾後蠢蠢長種類。被髮黥面語侏
離。純謹為風。少詐偽。金礦銅礦。逞逞在海。宜漁鹽
土宜藝。中古以來。棄不闢。寬政嘗一講遺利。其人
則最上。近藤間宮羽太。其書則草紙。分界餘録。休
明光記。審彼遺此。各得失。未見一部。全且備。往歲
大君襲職。初再置都護鎮。東隅更募高材。逸足者。

北地夷言
實踐闔境撰地圖。吾友多氣志郎應募出。竟許國
家以馳驅。臺笠戴頭劍橫腰。涉險跋阻如坦途。朝
攀鵲巢暮熊窟。穀盡茹果果盡魚。六月陰曠風裂
面。三春沍寒冰結鬚。獵虎東去蝦地盡。黑龍北來
自韃胡。不出三載盡探討。嗟呼汝真男子酬衆弧。
變之緯度氣節之異同。大之山川部落汙港之形
區。小之黃麋玄狐青魚若熊鵬鮭鱒之稅租。記來
殆如甲乙帳。爬羅剔抉兼精粗。裒然卷袞三百數。
至此始出大成書。誰謂徐霞客兩戒之外遍足跡。

山脉水源詳則詳。于天下務亦何益。多氣志多氣
志國家憑汝定職貢拓區域。其功大小與高下。相
較奚翅霄壤隔。錢虞山云霞客千古奇人游紀千
古奇書。驚子亦云多氣志天下有用之士日記天
下有有用之籍。

是篇往歲驚津詞伯所贈今錄以代跋

庚申夏五月

松浦弘識

山祖水就精傾翰于天不勝亦何益之康哉
 濟美既齊懸副發靈山云寶意下古音入新
 意因寒悉云宜解實研亞越真四大小與
 山祖水就精傾翰于天不勝亦何益之康哉
 濟美既齊懸副發靈山云寶意下古音入新
 意因寒悉云宜解實研亞越真四大小與

